

「防災の教科化を」 齋藤富雄・元監 齋藤初代防災監

県まちづくり技術センター設立25周年記念で特別講演会

備えや教育の重要性指摘も

公益財団法人県まちづくり技術センター（吉村文章理事長）の設立25周年を記念した防災特別講演会が4日、姫路市のアクリエひめじで開かれ、関係者ら204人が参加した。県の初代防災監を務めた齋藤富雄・関西国際大特命教授兼兵庫県立大特任教授が、「実践的な防災、危機管理」と題して講演。同センター技術顧問の小林潔司・京都大名誉教授は、災害回復力の強化など国土強靱化の課題を訴えた。

同センターは阪神・淡路大震災を機に、平成8年4月に設立。防災・減災やインフラの老朽化対策などに取り組みほか、県や市町の土木職OBらでつくる「県防災エキスパート」を組織し、大規模災害の被災地に派遣する事業も実施。今回の講演会はその研修会にも位置づけた。

同センターは「淡路大震災を機に、平成8年4月に設立。防災・減災やインフラの老朽化対策などに取り組みほか、県や市町の土木職OBらでつくる「県防災エキスパート」を組織し、大規模災害の被災地に派遣する事業も実施。今回の講演会はその研修会にも位置づけた。」と理
積み重ねることが大規模災害での対応力につながる」と説明。その上で「防災力の地域格差を解消する必要を訴えた。」

一方、「時間が経つにつれ、防災の大切さが薄れてくる。最たる例が阪神・淡路だ」と指摘。防災教育について「大学の教職課程で危機管理の対応が必修になったが、幼い頃から命を守る行動を教えるため、防災の教科化をめざすべきだ」と注文をつけた。



藤齋が防災教育の重要性を訴えた
藤齋は犠牲者の9割が建物倒壊による圧迫死だった。防災には備えの投資が不可欠だ」と伝え、八尋裕県技監は「躍動する兵庫の実現には安全安心が重要。予算確保で国への

兵庫ジャーナル1874号
11月15日掲載